第３回　学校運営協議会　議事録

１　日　時　令和７年 11 月 13 日（木）
２　場　所　御殿場特別支援学校　会議室
３　出席者　学校運営協議会委員

前小山教育長(CO)	高橋　正彦　様
トヨタ自動車(株)東富士研究所管理部	細井　敏光　様
時之栖　社長室	加藤　弘一郎　様
(福)御殿場市社会福祉協議会　常務理事事務局長	鎌野　晃　様
御殿場市企画戦略部未来戦略監兼未来プロジェクト課長	勝又　喜英　様
富士見原区　福祉支部長	小山内　君子　様
ＰＴＡ代表	伊藤　偉厚　様

本校校長、副校長、教頭、事務長、各学部主事、教務課長、連携課長
計 16 名

４　議事録

(1) **校長あいさつ**

委員の皆様からの御意見や御助言を反映しながら学校運営を進めている。特に今学期は御特祭に向けて全校で取り組む動きが出てきている。学校の目指すところとして、子どもたちや地域の方の居場所となるような繋がりを持てる場になりたい。委員からのさらなる御意見を伺いたい。

(2) **第２回運営協議会を受けての報告**

〇広報活動の改善について

・地域施設に児童生徒の美術作品を展示する際、QR コードを添付し、来場者から感想を募るアンケートを実施した。多くの応援メッセージが寄せられ、これらを児童や保護者に伝えることで、今後も継続的に良い発信を続けることに繋がると考えている。また、作品展示が新聞等で紹介されたことを受け、他の企業からも展示協力の申し出があるなど、広がりが見られている。

〇学校と地域との協働体制について

・第２回協議会後、社会福祉協議会の委員を通じてボランティア連絡協議会に対し、「学校と地域との協働体制」について探っていただいた。その情報提供の内容は、今後の小中学部の学びの広がりに繋がるものが多いと認識されているため、計画的に連携を進めていく。

(3) **協議・質疑『コンプライアンスについて』**

〇校長より

・リスクマネジメント研修や勤務服務管理の見直しを行い、児童生徒を守り、教育を守り、学校の信頼を守るため、引き続きチーム一丸となって取り組んでいく。

(4) **『もくいく巡回キャラバン』について**

〇地域との協働・連携活動

・本校は、様々な企業、学校、団体などが、地域振興や産業振興、SDGs 推進のために繋がり合って地域づくりに取り組む場の SDGs クラブに加盟している。

・未来プロジェクト課の協力により連携が開始され、御殿場南高校１年生 17 名が地域探究の一環として本校を訪問した。この体験が、高校生の今後の生活や進路選択に生かされることを期待している。
・森林組合と繋がり、木工課の高等部の生徒が伐採現場を訪れ、伐採見学から植林体験までを行った。資源の利用だけでなく、植林による山の再生を体験できた。

〇もくいくの推進活動について
・木育は、子どもが生まれて最初に触れるアートである木のおもちゃに触れることを通して、木に親しみ、木と共に生きていくことを目指すものである。御殿場市は SDGs 未来都市計画の一環として木育を推進している。
・来年度（2026 年）の８月予定の富士山木のおもちゃ美術館開館に先立つ事前事業として実施されている「もくいく巡回キャラバン」で、本校に 11 月～12 月の１ヶ月間、おもちゃを借りて展示している。初日には木育協会やおもちゃ学芸員が来校し、子どもたちと一緒におもちゃで遊んだ。この活動を通じて、木のぬくもりや香りなど、御殿場ならではの自然の良さを感じてもらいたいと考えている。

〇学習の様子の参観・体験

(5)全体を通しての感想・意見

委員：子どもたちが楽しそうに遊んでいる姿は素晴らしいと感じた。また、地域との交流は、学校側が受け取るだけでなく、学校で作られた野菜や製品などを幅広く販売できるといった相互のメリットがあった方が、繋がりが広がりやすいのではないかと思う。

委員：大人が遊んでいるのを真似て、後から遊ぶ子を見て、一緒に遊ぶことの大切さを改めて感じた。大人は説明通りに遊ぶのに対し、子どもは遊び方が違うという発見もあった。木のおもちゃ美術館に行きたいという期待も湧いた。

委員：ゲームで遊ぶような仮想の世界ではなく、実際に体を使って学んでいるという感じが強く伝わってきて、非常に刺激的だった。このような体験は、情操教育にも非常に価値があると感じる。今後のおもちゃの活動に期待する。

委員：地域の方へのボランティア活動で、特別支援学校の存在をまだ知らない方が多いことに気づいた。学校に来た際には、教室を回っていただくなど、もっと理解を深めていただく機会があればと思う。

校長：一つの繋がりを作るのには、時間がかかるが、その後の未来のためにと考え取り組んでいる。現在、市や企業との連携も模索しており、関係人口を増やしながら、大人も一緒に手を繋いでいけるようにしたいと考えている。

司会：継続的な活動が、論理ではなく感覚として、共に生きるというイメージを子どもたちに持たせることに繋がっていくと感じる。この活動がさらに広がることを期待している。

（終了）